

寛永諸家譜

平氏十九冊之内
北条流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (67)
函號	特 76 1



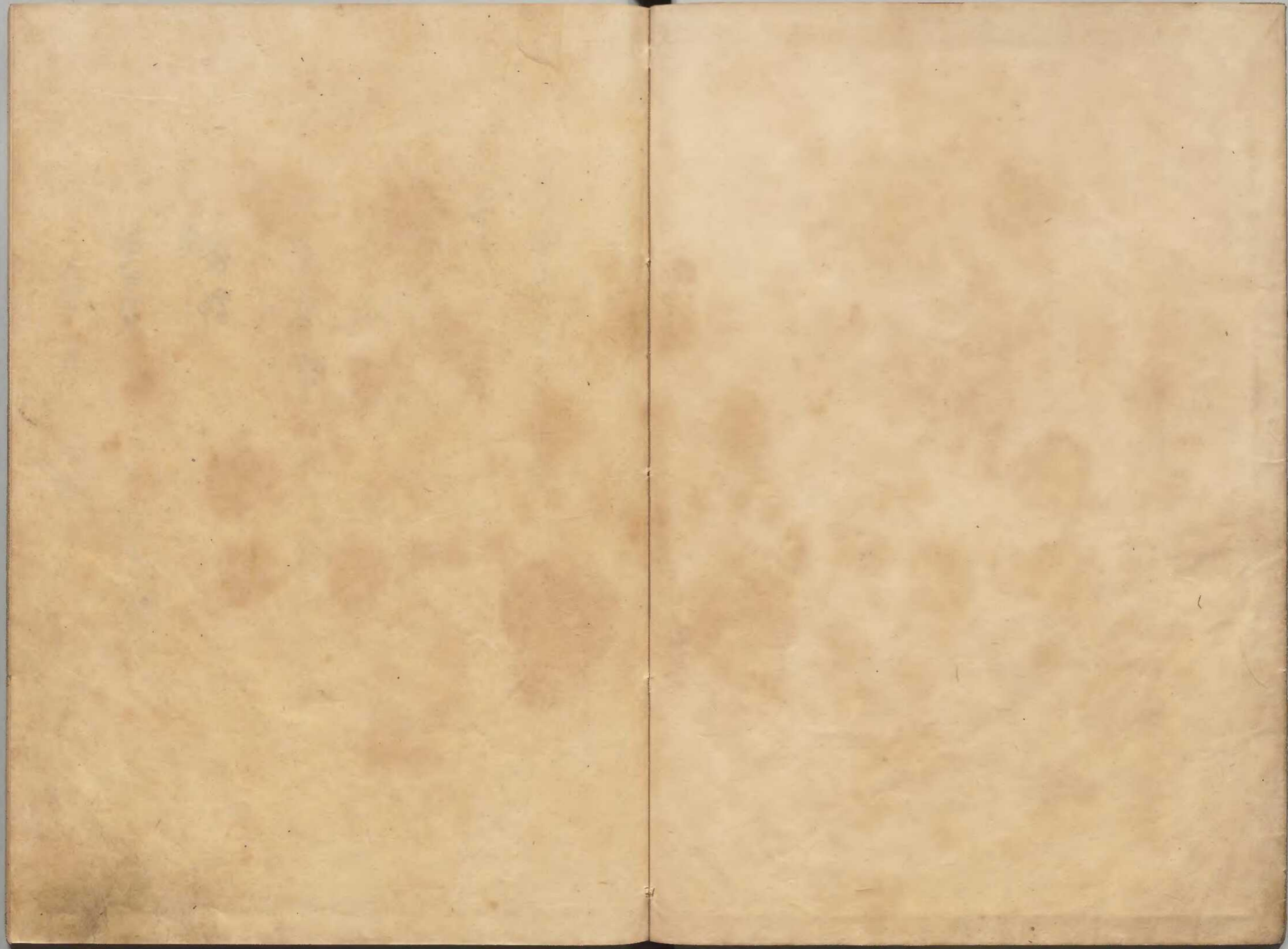
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007. TM, Kodak





高口

墨野

平野

寛永諸家系圖傳

平氏

小條流

高口

之河國十六騎乃其限一なり

● 貞實

能長次郎

法名蓮生

高口平野後亂なり

淺草文庫

直家く

小次郎

直守しげ

又次郎 武列 熊岳の郷 一 伯也

直忠ちゆう

忠守しげ

直守ちゆう 直守

又次郎

直鏡ちゆう

又次郎

俊中しゅんちゆう 俊中しゅんちゆう

元弘三年尊氏六波羅と逐治一と
上流を討つ其勇傑の古十六騎と
えし直鏡もも一とわたりて
教度軍功ありうららこ列八
名親とるちりちりせく居行を
法名生観しやうけん

重氏 しげうぢ

又次郎

氏初太補 しげのたしほ

守直 しげなほ

清重 きよしげ

其後次郎 しげのちのち

其高 しげのたか

實家 じつけ

新次郎

永享十一年 しげのち 若根合戦 わこんがせん 討死 うらした

長直 ちげなほ

守實 しげじつ

新太郎

又次郎

其庫 しげのくら

實長 じつちが

其庫入道 しげのくらいりだう 連貴 れんき

正妻

梁田新こと号正三列高力郷
居正と

守長

高力と次郎 備中守
冬列高力の郷 居正と
ちりめく高力氏とたけり母は

梁田と次郎 ぐむとめ

清康君 一とふとら

天文四年十月 清康君物吉は

織田備後守と列 一お法とけとと

守長伊田郷 一とひく討死法名

道蓮

安長

新三 母は小笠原新平が女

天文四年十二月父守長しげながの回まわり
伊田郷いだけよりこひく討死うちし 法名ほふな道院みちいん

守正しげまさ

新九郎しんくわらう

天文六年 唐忠郷たうしゆけう之列しよ長崎ながさきの城しろ

入陣いりじんの時とき命いのちと背そむく志こころ入事いりじ

在元ざいげんゆり志こころめんめんと志こころ守正しげまさとやく

馳撃ちげきくまこ一城いちじやうとちりく軍功ぐんこう

あり故ゆかり一ひとの感かんとこころあふ

永禄二年五月尾列おひら大高城おほたか

とひく討死うちし

女子むすめ

若坊わかしやう勘かん右みぎ中なかつた衛門ゑもんの妻つま

清長しげなが

新あらた之のとらななの 河内かゐ守し 母ははは板倉いたくら氏うぢ

乃むしあ

天文四年 主長 安長 ありし

伊田郷 一とひく 討死 討死 清長

六歳 一とひく 孤 一とひく 伯父 守正

一とひく 書 一とひく ち

東照大権現駿府 一とひく 一とひく 清長

一とひく 一とひく

永禄三年 五月 尾列 大高 合戦

一とひく 一とひく 一とひく 一とひく 一とひく

うちと家

同六年 三列 一とひく 一とひく 一とひく

ちす時

大権現 伊豫代 の士 一とひく 一とひく

一とひく 一とひく 清長 同 一とひく 一とひく

一とひく 一とひく 一とひく 一とひく 一とひく

一とひく 一とひく 一とひく 一とひく 一とひく

一とひく 一とひく 一とひく 一とひく 一とひく

大権現 伊豫を 一とひく 一とひく 一とひく

是為右後後地を乞く割法
を定なく佛像經卷を紛失せしむ
て拾獲免許乃時乃乃中廢り也
是よりより國民みな佛言力と
移せり時

大権現沙威祝あり

日七手三列是濟一をひく奉
職と祈む

日十一年

大権現遠列と征伐一終り時供奉

日國久野孔城一換舞部と

大権現乞とりつゝ乞と少せきたる

時清長後滋とありりりち濱松

古城本丸一居と時

大権現本多也たる天守之と來り

清長一命一と之なりと

元龜二年其田位言之方原

おはせ

大権現台を祀るに合致したる
清長と力舟と家持と川車と
批發し種族をくまふに時一族
岩堀勘右衛門父子郎兵衛十人
討死也

天正八年幸列馬込堀江味と
福田と領也

同十年

大権現沙上海ありく泉列ういよ

中一海と時智京都ふと長
を討ふに飛脚ありく若きふ

大権現明智とうたんと列し海り
清長殿と小荷結をり

中中とありしはへる清長教度
返合追拂し鉄炮疵をかりぬ
名と金して三列大演し

同年八月駿列田中と海り

山西を領む

同十二年秀吉

大指現と和膳孔時御使より上あり

是よりより秀吉較度威状と居り

同十四年秀吉豊后州とを領む

後五位下より叙し河内中より叙す

同十六年

大指現清長より取樂州遠征あり

なりし清長を叙す是よりあり

をこたらしむるなりち秀吉

大指現乃新亭より入河あり

遠征ふ日ありて莫西藤よりなり其

勅切を叙し清長を叙し新前立國光

乃脇指を領む

同十八年水原氏改職あり

大指現用東八列と叙し給ふ故清長

茂列忠付乃城二弟を叙し海より且

城島浦和州郷の年貢一石代宿

清長より信濃より出立九清長村屋
 志乃の故家人中村源右衛門一命と
 浦和の郷の代官とあり一十年貞
 と志乃の城より納まりとすくふは
 宿舎より洞中村と宿舎より一
 ありとありと私に伝とあり

同年九月秀吉が東進の時志乃
 の城より入信清長是と郷にありと
 秀吉が宿舎の萩花とあり信守と録

一と是を寺海よりとありと秀吉
 田原の西に後列田中乃城とあり時
 清長が妻子に田中の城よりあり秀吉
 堀田を授けしとけり一と是を寺より
 くとくはけりとありとありとあり

大杉現れ信をり一と志乃の城よりあり
 ちやくはけり一越一とあり清長が
 秀吉が授けし一連自能子とあり
 と酒とありとありとありと謝と

秀吉是と感^{かん}是^こより毎年清長^{せいなが}
書^かれ方^{かた}より進^{しん}物^{ぶつ}を献^{けん}と

文祿元年秀吉朝鮮國と征代^{せいだい}と
大権現も中^{ちゆう}る形^{かたち}ある名^な古^こ金^{かね}よりより

たまふ時^{とき}より

大権現清長より命^{いのち}より朝鮮^{ちやうせん}海^{かい}の
和^わ道^{だう}の奉^{ほう}じとなさしむ

大権現^{おほいけん}実^{まこと}東^{とう}還^{えん}法^{ぽう}に故^{ゆゑ}清長^{せいなが}九^く列^{りつ}より
他^た分^{ぶん}取^とれ和^わ費^ひ用^{よう}の勤^{けん}辨^{べん}とこふ

大権現^{おほいけん}れ^れ信^{しん}より海^{かい}の村^{むら}淳^{じゆん}直^{ぢく}より何^{なに}が是^{これ}
をうごかたんやとのいふも志^しくれども

清長^{せいなが}よりくふ是^{これ}と勤^{けん}つる其^{その}あり
取^とれ黄金^{こうごん}二十^{じゅうに}枚^{まい}と也^{なり}より

大権現^{おほいけん}れの^の海^{かい}に我^{われ}海^{かい}よりをいふ
ふご事^{こと}たり何^{なん}が是^{これ}と細^{こま}りんや

くすらららち黄金^{こうごん}と清長^{せいなが}より
清長^{せいなが}三年秀吉^{ひでよし}物^{もの}去^きれ時^{とき}造^{ぞう}物^{ぶつ}より

清長^{せいなが}より黄金^{こうごん}と給^{たま}より何^{なん}より書^か

も又黄令とす海へ

日十二年正月二十六日七十九歳

卒を 快克院と号す法名

道結

正長

与次郎 指左衛門 吉作

母は河部通金の女

元龜二年を列之方尔令裁一母

と更なる挑とひ疵を遂り甲首

一級とす時小正長十五歳なり

天正二年五月武田勝頼之列を藤

田張と正長と

大権現日と會と大子裁と

正長勝頼先務奥津某と討取

同年九月武田勝頼城を破る

を列小山乃城とも張と

大権現野呂とと率と演と

乃城（おのぎ）一入らんとし終り時（とき）り
 勝れ先陣ありと遊（あそ）ぶ正長再（また）一
 目下於身即八等引（ひ）ぬしと遊（あそ）ぶ
 我（われ）て甲首二級と討（う）ちぬ
 同十二年尾列長久手合戦（あひびき）の時
 正長（まさなが）のひしし三宅孫次（みやけのまご）集結（あひま）す
 左馬督（ひだりまのかむ）の擧（あ）げし向（む）く甲首一級と
 と遊（あそ）ぶ

大指現怒（おほさしげんぬ）き海（うみ）ひく起軍（おこぐん）いしと遊（あそ）ぶ

うはゆれ前敵乃展實（まへてきのみひらみ）とすかどしん
 中次（なかじ）總（そう）りし汝（なんぢ）振（ふる）馳（ち）し軍法（ぐんぽう）と背（そむ）く
 とり終（お）り是（こゝ）ししと遊（あそ）ぶ
 氣（き）と遊（あそ）ぶ
 二人（ふたり）れ父（ちち）祖（そ）累（ついで）代（しろ）忠（ちゅう）切（きつ）あり故（ゆゑ）し
 大權現（おほまゐり）四勅（よんしやく）と思（おも）はく本領（ほんりやう）し候（さ）す

じ

同年十二月甲子日（どうねんじふにがつがつしにち）甲子日（がつしにち）越中国（えつちゅうごく）水（みづ）津（つ）奥（おく）志（し）
 成改（なりか）潜（ひそ）しと遊（あそ）ぶ
 成改（なりか）潜（ひそ）しと遊（あそ）ぶ

大権現ト湯トキトクトマト

大権現是ト郷ト食ト無トキト海ト村ト

正長ト成ト政トノトリトみトくト宣トくト

此是ト言ト力ト次ト郎トハト先ト程トノトリトコトレト

代トノト勇ト切トれト士トカトリト成ト政トガトイトクト

大権現ト後ト代トノト勇ト士ト多トクト諸ト國トノト及ト

トトリトアトリトマトシトキトレトトト時ト清ト長ト

後ト列ト田ト中トノト城トノトアトリト正ト長トをト演ト極ト

ありト日ト和ト御ト前トノト勤ト任トとト

同十五年ト後ト府トノトとトひトくト大ト河ト東ト

頼トトトカトノト家ト

同十八年ト秀ト吉ト小ト糸ト氏ト政トとト巡ト討ト

せんトがトたトめト岡ト東トノト下ト向トありト

大権現ト後ト府トノトおト列ト小ト田ト原トノト邊ト殺ト

一ト子トノト村トノト正ト長ト修ト年ト

長ト四ト年ト三ト月ト辰ト五ト位ト下トノト叙ト一ト

吉ト作トちトノト何トとト

同日ト四月ト廿ト二ト日ト病ト死ト歳ト四ト十二ト

淨ト林ト院ト

通貴と号と

女子

帳部指大史が書

忠房

長正四年六月
母伊奈中御女史の女

白蓮院教所御前とひくえ帳部指

乃字とキ海より馬江次者御前
とお文とく父正長が遺跡と銘と

同五年七月

白蓮院教所列真田表と進發と

時忠房依在と一屯子に城の画徳と

日九月に列より依在と一京都と

系忠と院と一実尔合我落者と

白蓮院教所田方と尉又子と

忠房と一命と一あつげと一大阪

をひくころしとけり武列
岩鹿乃城一遺止

同十年七月

白鹿院殿河上河内時流力佐下一叙一

左を太史一何止

同十四年二月岩鹿乃城突上止

忠房すまら新に城部殿舎遺

當止

同十二月

大権現岩鹿一御齋持一信の城中一

入法あり忠房これと速きくもつ

大権現乃殿舎と河内院ありと回祿

孔故つまといくたぐなつらり新築

こやくちたり此とあつ家とつひつ

べーとのつまよひ一遺法は忠房

が河内守長次と河内使少一と白銀

二百枚と忠房一とあ

同十九年正月大久保お権守取飲

あちち
没收孔時 修しゆししくく 中ちゆう多たももささきき
牧野まきの太馬たいま元もと法はふ正せい家け女にょ正せい松しょう平へい数すう中ちゆうと
ととししびび忠ちゆう房ぼう等らおお列れつししりりもももも小せう
小田原せうだげんのの味あじとと法はふ正せい家けとと定さだむむとと

同年十月

白蓮院はくれんえん敵てき法はふ國こく乃の軍ぐん号ごうとと率りつししくく大だい坂さか
ししりり進しん殺ころれれ時とき修しゆししくく

元和元年四月又大坂乱おおいさかととししりり時ときしし
忠房ちゆうぼう去こ大だい坂さか以もつ經へいししりり屋やとと

同五月大坂勢おおいさか泰たい良りやうとと統とう拂はらししりり
すすふふれれ風ふう聞ぶんありあり故ゆゑししりり

白蓮院敵はくれんえんのの画え後ごととああせせぐぐんんががたたああまま井い
ちちりりととししびび忠ちゆう房ぼうししりり命いのちししりりとと是こゝろとと
ちちししりりととむむ

同五日泰良たいりやうとと志しししりりめめくく又また大だい坂さかししりり
いいききししりり

同七日合戦くわくせんししりり久く世ぜとと白はく郎らうとと同どう城じやう中ちゆう
地ち入いり首くび母はは解よ級ききととししりりととししりりととししりり

城孔後

右通院殿忠房なむらなるさうごしらくごのごと

山田やまのたけ十太夫じゅうたゆう命のみこと一々いちいち目付めつけし

奉山ほうざん伴實ばんじつ守日しゆじつ友ともを別わか取と孫まご孫まご中ちゆう女によ

同懐どうわい守しゆ神保かみまも方かた京亮きやうりやう相念あひあひ忍しのぶはは守しゆ

一々いちいち忠房ちゆうぼう一いちはは一いち和列われつ守しゆ女によ

乃城のしろ一いち和わとと沙堂さだうとと尋披じんひてて園中えんちゆうに

割法せいはふと定さだとと

日三年にっしんねん江戸えど一いちとと一いち々さ若わ者もの中ちゆうと

考

同五年どうごねん九月くわがつ岩いわのの城しろとと持もち下した幸さい列れつ

濱松はまのまつのの城しろとと一いち百ひゃく石いしとと加倍かばい

初はつとと三さん万まん石いしとと飲のむ也や

寛永かんえい十一年じゅういちねん八月はつがつ

將軍しやうぐん家け海かい上じやう洛らく還えん乃の時とき濱松はまのまつのの城しろ造ぞうし

とと一いち百ひゃく石いしとと一いち百ひゃく石いしとと一いち百ひゃく石いし

日十二年にっじふにねん四月しがつ

將軍しやうぐん家け日光山にっこうざん一いち河か系けい宿しゆく所しよ時とき忠房ちゆうぼう

佐野十之助くぶ 遷御あり海井せんぎょ
阿波守とび忠彦あしの 命いのちと見光
る留金山中るまゝ 乃事ことと沙古さこせしむ
是これよりありき

白旗院殿

將軍家日光御系えんけいすぶ 伯耆度佐野とつ

とむ

同十四年なほ 冬ひ 昭前ぜん 高久たかく 郡嶋原しづまはら
よりある人ひと 乱らん となりて 赤井あかゐ 味あじ

きくく西國さいこく 乃軍なりぐん 告つ 等ら

將軍家乃信しん とうとうありき 是とせらうい
同十五年ごじゅうご 春はる 原はら 城しろ 高城たかしろ 赤津あかつ
後あと こもくく 珠たま 子こ 乃四月しがつ 忠彦ちひこ 濱松はま松
と改あらた へ徳原とくはら の城しろ とへはらうつ
こ乃この 乃波地なはぢ 一むふ 乱らん 後ご 乃格かく 討う
法令ほつれい と定さだ めをきして 然しか ち結むす ぶ

正守

侍中卿 之列高力に郷と領と

後府ごふととひく

大権現おほごんげんととひく

長七ながしち年十一月五日病死十七歳

法名ほふな栄徹えいてつ

長次ながつぐ

虎助とらすけ 河内守かんなのり

兄あに正守まさむねが御職ごしやくと給たまはく高たかく高たか力ちからに郷ごうと領りやうと

後府ごふととひて

大権現おほごんげんととひく

長十四ながしじゆ年五月五日病死よめごかへ十五歳

叙しよ一河内守かんなのりととひて御馬ごまに侍さむらひと

おふとく上かみ壇だん給たまは仕つか仕つか役やくと侍さむらひと

同十九どうじゅう年四月三日病死よめご廿三歳

法名ほふな珍ちん室しつ

女子

女多を即ち為るが書早世

女子

賜坂自水正の書早世

隆長

大進大支母は吉田伊豆の女

長十七年十二月八日

大権現忌路の珠一とひとしう御持

あり忠房が館一入流れ村忠房母

大権現一すまひをまくまつる三列伊奈

女多氏乃由緒とひとしう母詳一

云上正

大権現沙威あり隆長一と信ふりう

くめく御前とありまくまつる

時

大権現りれり年表抄とひとしう

元和三年日光山

東照大権現御遷宮御時

白蓮院殿沙堂山あり海次忠流の御下

渡御し給ふ階長くしりぬ

白蓮院殿し御見しきくまの御下

年敷と同給しし御殿とすまひ

時忠房が母しりぬ

白蓮院殿しきくまの御下

御殿とす海たるか

同四年正月十五日御下しきくまの御下

て

將軍殿し御見と

同九年八月廿一日

將軍殿沙と海乃時京殿しきくまの御下

御下下し叙した道大史し御下

長房

長房少輔

寛永七年三月二十日

將軍ら安ん一ん湯見ん一ん中興ちゆうきゆう所しよ

小姓せうしやうとらわらつ

日八年二月十五日病死朽木氏部くしきのしんぶがら攝しやく

種たね總そう一ん使しとらくく事ことりり糸いとよよ

政房まさむら

左京亮さきやうのりやう

寛永七年五月

右みぎ德院殿

將軍安一湯見一く事ことりり

右みぎ德院殿一ん作しやくとらふふ

同九年

右みぎ德院殿亮御らうご乃の後ご

將軍安一ん此こ一んくく事ことりり山さん姓しやう

総そう所しよ者しやとらははとと心こころ

家乃紋横木帆

高刀氏代こ三列ありと

とも云方一迎仕一と十六騎の

日ちり是一りく相れ紋と

へ海へ

畠野とらの

え小條氏ちり傳へく相模次郎時行

が末流とらふ先祖教代伊豆の國田中

と能く是よりく泰新ぶより

小條氏とあらたけく田中と稱せ

後一融成よりて小條氏改乃

命よりりく又板形畠一改む

後秀吉に命じりて死す。是野
とゆふ。

某

小條長吉に討 生國伊豆
明應二年伊豆國焼討りて死す
法名幻心

奉行

田中勘十郎 生國同前
小條長康に討りて死す。我て疵
とす。其母長康其軍功を賞して
天正六年十二月二十三日小田原に
とす。死す。歳九十九 法名淨心

融成

是野越中守 生國同前
利發に討りて死す。母若木按察守り女

氏政とひ氏直と一に子附小氏政
後板部是故也其遠江に地あり
与の七とつと融成し是補せらる
氏政に命し一に中と所た
めく板部是と稱せし後又外男を
招きち遠江にちひしと刀に士と
て又融成し付らる是より冠禄日
日し進心
氏列岩付に城を小澤源兵衛死すに

後江雪塚番と稱しと後城と十島氏房
了たす
氏政氏直が陣に付らるる融成
ととつと小田原に城とすもの

天正十年

大権現甲列しとひと小澤氏と婚姻し
事と約したまふ附小江雪使節
わしと後府及び濱松に往來して
いしと酒來れ附日と定

大指現御使と小田原へ付りてなす

時は江雪うきす養者も形も其

外武田晴信勝頼及び國東元徳將

使と小田原へつりて度少は江雪こ

せくく是と此とて

日十六年秀吉小條氏とてはさ

事といふ時小條氏より英治寺

氏親と使せりてと海せむ秀吉

とて悦くすまらて對面

まらと小條氏と海に儀と約く氏親

國へ海へ

日十七年氏政より江雪と使せり

てと海せりてと列江田城

と結とて父子中一人と海に

すへりて秀吉悦く是と結り

すまら江雪と海くみづりて茶

とて海より無情ありてすくみ

て江雪國へ海

同年八月秀吉富田近將監津田集人正
しおのぞく沼田乃城と小條氏小なま
家しとひく小條氏より總城と信吉
とをわしと是とけし
すかろち小條本房吉氏郡是とあり
時り氏那が信格役能水吉とあり
若命とありけしとありとありとあり
か宗久も兵れ城とありとありとあり
しりく是と秀吉しりくありとあり

をひく小條氏を是を馬元と使し
て格役が楚忽れしとありとあり
秀吉移りありと大いありとあり
とありとありとありとありとあり
しりくありとありとありとあり
同十八年秀吉小田原と征伐を城沖
しりくありとありとありとあり
尾張守使と秀吉しりくありとあり
せんとしりくありとありとあり

一乃一既一志一事一河一た一尾一張一也
 一と一書一し一終一ら一れ一遂一し一切一腹一せ一む
 一是一し一り一城一守一終一勤一を一室一小一と一ひ一く一考一を
 一仍一く一和一漢一と一乞一氏一盡一と一し一く一城一と一也一と
 一し一む一氏一盡一城一を一お一州一室一攻一と一し一書一
 一し一あ一つ一け一ら一か一し一書一本一を一し一む一く
 一志一れ一を一守一護一を一秀一右一遂一し一氏一政一と
 一て一自一殺一せ一り一の一小一田一尔一城一を
 大権現一し一あ一つ一け一た一ま一し一時一小一し一書一

大権現一し一湯一見一し一き一く一ゆ一り一り一本一丸一と
 お渡一し一く一所一か一を一故一氏一盡一に一前一し一
 一し一り一て一城一守一終一勤一を一事一と一し一考一を
 の一命一し一し一り

大権現一を一力一河一内一を一成一濃一保一賀一と一り一し一く
 一し一書一し一河一の一し一海一く一吉一年一山一條
 一氏一海一と一し一て一よ一海一せ一り一の一く一い一く一も一し一
 一河一内一城一と一終一く一又一子一の一中一一人一よ一海一を
 一し一く一し一し一く一お一約一し一今一其一と一と一愛一む一と

是は條孔偽、他汝、偽、以書答く、
去年我ら所、此時を患、秀者、
戦して使、事と述、今も又、
す、
大権現、使の、
秀者、大、
小相、械、具、と、
小、ま、う、け、の、書、の、脇、指、と、奪、取、

た、た、れ、と、引、張、て、秀、者、に、前、小、し、き、を、
抱、秀、者、と、つ、
く、去、年、汝、と、海、
事、を、約、と、
き、ら、下、れ、
此、自、君、と、
あ、う、す、や、
謀、叛、の、心、な、
小、條、威、己、の、事、を、天、運、を、

魚れ及下りあらず 継一家滅と云ぬ
くふも一びて下れと云ふ
事ハ武吉れ面目ちりあ又我無婦
んあふと云ふ我自ら云ふ
くゆが級し居すぐんやけ外別
つづき事なり一兵福がくけを我
首と云ぬくまん事と云ふ秀者
れがとれいけきく我氣れたゆ事
く感しと云ふく一教也と和云くい

く汝の罪をくをり 刈てあけり
わく京都へ送り三條河原へ磔す
き老なりも今汝が汝男とわけて
我が一母りかもはくす
と云ふかいしと云ふ海と云ふと云ふ
しめけり老なり思ひれりり勇士
れ道とけくせり我其こころけり
感しと云ふ死罪とゆり今けり後
我しつて忠と云ふと云ふ

て多し一持下し繩を以て書ふが事あり
うれしむ後日く小進く手仕とて
板の是とありてあてて思野と稱す
文祿元年秀吉朝鮮と征せんを小
北列名儀屋一と陣あり

大権現も同く在陣一は下小之列
下書れ給ふ毎賀長修理太夫又唐病を
る一龍形一秀吉れり一は蘇せしす
あらはの書と使とて子細と為同志

めはら

大権現一ありせく針伊を以て備置改林原
或は古補康改と指つらん一軍古と改

一と下書小卦一む家一をひく
毎賀長陳謝と時小の書旨と述く
今度其方不系れと料とて莫令改
とからぐ一とらふ毎賀長諱とらけ
ごふ家一をひくは書名儀屋一馳改
てけ一とらふと是一とらふと

抄りしたまふ

長五年石田三成謀叛いふらかりひやんの元寇もとごころ

中納言ちゆうなごん秀秋ひであきは三成とて討うつ

命いのちと授あづかりしころ所ところと

大権現おほいけん通とほ山やま道みち河原かわら屋や

又また河原かわらとあひつりひくむりり

正ただ二ふた河原かわらとあつりす

同年

大権現おほいけん山やま陣ぢん小陣こぢん秀秋ひであき

うらぶら

足将あしげ十人じゅうにんとけりし志こころのびれ者ものと

道河原みちかわらと河原かわらとつりあつり具ぐと三成さんせい

謀叛ぼうはんの事こととつりあつりあつりむらと

小陣こぢんとつりあつりあつりあつりあつり

平たいら

同五年九月朔どうごねんしゅうがつしやく

大権現おほいけんと方かたと進すす夜よと河原かわらと秀秋ひであき

足将あしげとつりあつりあつりあつりあつり

忠節ちゆうせつとつりあつりあつりあつりあつり

同十五日

大権現之成と関ヶ原せきがはら一戦いくさをすし
秀秋約とたふすね尾山おしやまよりお谷おや之成
既すでに敗少くわいせうと

大権現即日秀好ひでよしより逢坂おうさかひく今度こんどの
軍功ぐんこうを賞あづかりし秀好ひでよし曉あけより言いふも
一ひとく江列えりつ水みづ和山わやまの城じやうをむじ是こゝに成
が石城いしじやうよりて見みて壺か以も一成いちじやうの海うみりり取
かり聖朝せいぢやう

大権現の書を御使ごしとして秀秋ひであきよりつめて
の海うみより明あきる関ヶ原せきがはら一ひとと云いく戦功せんこう
と既すでに中なかつより又長途ながとちと弛ゆるく
水みづ和山わやまとむじ其方そのほうはむくふへくす
且かつ又長途ながとちの式しきが少すく猶なほ秀頼ひでたかの使しとて
水みづ和山わやまの城じやう中なかつよりあり今日けふはむくす
城じやうとむじ一ひと美切みせき裂されあひ志こゝろありと
みむけりて関ヶ原せきがはらとむくす一ひとと
かり秀好ひでよし一ひとこゝよりくうけ給たまふ

家よりとして長谷川城とありて
大権現天下一統一之後通河孫と
以需き一之仕一きくまうり統
地とたす
日十四年城列伏見一とひく死
歳七十日 法名傑翁 源英大居士

房垣ふさき

平々忠尉 生國相模

始は岩付の城より小原十郎氏房より
時小諱の字よりありて房垣と号す
天正十八年秀吉小田原の城とて
時小氏房城守ありて氏房の俊光
とて諸古語岩付の城より五月
二十日秀吉の岩付の城とて攻入
りてあはは淺野彈正忠長が中務の
忠勝安久戸のせはは本村の隆外
同流市右衛門尉新井備前守の
せはは鳥井

表は馬射元忠平若日斗以親をちり
大手のせえはに老況し橋きはりせち
城中新井橋の橋にり士卒を
あしききりり鉄炮とるちり
いども平若鳥井士卒をせえ入る
お戦はりり城中新井橋の
大井橋とび内宿り川返り敵を
競ふの家をひく新井橋の
大子に川返時り房垣は内宿り

城戸にりあひ己乃割れ初り午れ
割乃終りくお戦ふ事とる三度
其間敵二人と突たとせ一人
即は是と討ね之度りをりし時
あせをりり老は房垣に居三人
なり山に平岡山角表之即は我敵
とり老あり事りり房垣りり
是りりりり人との家をひく
敵數十人とあひりり山角

之討死を敵乃將平器が才物ある又
討死し房垣之突少せられて即後是
と少く家しをひく味方共大に
うききりくく敵もまうく多く
うらむく印如橋し追おらる城中
も又門と因家しとひく和談を
平器が総下り村井をたあつとて其
あり暇しをひく叫ていへ今日
城中赤白為遠け打け乃武者と

姓と合とを名字付しひくふけ
ぬらうぐしと志れども房垣を
底とく少く故し郎後出て是し
各々翌日和談事調く城と後し
てけりある付

將軍松平お言さしとて川く房垣
初と少く尋あり付小とこれ敵く乃

天正十九年味方聚集しをひく

同日年騎馬きば同人どうじんとあづか
日十年御加賀みかが者領ものりょう也

成明

内務うちむ元 生園なう茂苑

元和五年

台座院たいざえん殿でん 湯ゆ

寛永元年八月

將軍しやうぐん 湯ゆ

日年十一月いちごふにじゅういち 湯書院ゆしやうえん 湯ゆ

成垣なりかき

長十郎 生園なう同どう

寛永四年十一月

將軍しやうぐん 湯ゆ

日五年十一月いちごふにじゅうご 湯書院ゆしやうえん 湯ゆ

湯ゆ 湯書院ゆしやうえん 湯ゆ

じ

房次

三右衛門尉 生國相模

弱冠より若附に據り小條十郎氏房

一付り一諱の字と文

天正十八年小田原勢に附り氏房と

小田原に據りしを獲り小田原

没落乃故又江君が命より氏房

一随くも野山一のり氏房を遊

吉川後英信守氏盛小糸家にお預り

一氏盛一氏房と

安長九年伏見に據りしを

大権現一氏房と

頼宣邸一氏房と

同十六年九月二十五日後府にお預り

死に歳二十九 法名通智

英明

指在室の 生玉持津

寛永九年英明五歳時祖父の雷お

とづえく伏見の城よりとひく

大権現より湯見せしめし雷が遠江と

とてあべのししとく御為事あり

信よりく弱年れ同に紀列の宣御

より房より大坂の御陣より新官御

去りよ

元和二年正月十七歳時 信より

て親宣よりりりりりりり

大権現荒湯乃後娘府より御事よりり

台徳院殿より信よりとくまつ

日九年よりり

將軍家より信よりとくまつ

寛永三年小十人紀列者以と信より

御加増とあり

同五年布衣と志しる事と持り

しり

同十年しり書院書院組以て

しり

同年又書加増とす

孝明

自統助 生玉武統

寛永九年十月

將軍家しり湯しり

同十二年十二月しり書院書院と

しり

貞明

孫九郎 生國日記

寛永九年十月

將軍家しり湯しり

同十五年正月しり書院書院と

少

少
乃
級
鴨
酸
草

平野ひらの

上野うの女を平へ河が直ち方か河が孫まご水みづ糸いと乃の流ながるる

● 美久みき

尾お列り津つ嶋しま乃の伯おきな人ひと 平へ野の入い道みち水みづ号ごう也なり

長治ちがひ

大東進おほひがし

実多様二位清系に枝實の子なり
前久喜とて中を故に平野と
程也
信長とてひ秀吉とて

長泰

遠江守 生國尾張津

天正七年秀吉とて海軍

日十一年秀吉柴田とせり北志津嶽

とてひて合戦し乃ち時長泰大將
了信をく一騎をせむひ秀吉に
眼前しとてく鐘とありとて時日
くすむ者七人せし是とて七人鐘
とて柴田印付し殿わし戦前とて
くすむとて功しとてくこふんと
殆り威状ありとて後秀吉とて陣
度とてふ信奉しとて戦功とて
とお

文祿四年志津嶽に軍功あり
か時、いふといふなり和列十市の勲
ありといふといふなりといふといふなり感状あり
是又長三年三月十五日を以て姓を
よりいふといふなり叙しいふといふなり
同十九年大坂御陣の節長泰は
ありありといふといふなりといふといふなり
ありあり

大権現に始りしりく又いふといふなり福徳

黒田加茂等と同一くいふといふなり
名徳院殿又いふといふなりといふといふなり
寛永五年に卒すといふといふなり

長重

九代将 生國日前
織田味方信忠よりいふといふなり
此より

天正十一年に志津にいふといふなり

秀吉は築田とせらるる時七本鎗の
傍ありて軍忠あり

萬曆五年

大指現開ヶ原沙田馬乃時信をよむ

大坂沙陣あり信をよむ

元和二年あり

白旗院殿ありてそまらる

日八手あり

將軍家ありてはくまらる

今名隠居法新く長元と号せり
八十二

長利

清和天皇 生國抄

元和九年あり

將軍家ありてはくまらる

長勝 ちかかつ

将平 生園日記

元和元年

台座院殿

將軍殿よりお湯

寛永五年 家督と継いで和列十市

郡五石と領

家乃紋之辨

長治実文系

● 天武天皇 — 舎人親王 — 御弟 — 小倉

高野 — 海雄 — 房別 — 業恒

大洞

廣院 — 頼隆 — 定隆 — 定康

北澄 きたうみ

頼業 よりなり

仲澄 なかつうみ

良業 りょうなり

頼尚 よりたか

良季 りょうき

良枝 りょうえだ

宗尚 むねたか

良益 りょうえき

宗季 むねき

良賢 りょうけん

頼季 よりき

宗業 むねなり

良宣 りょうのり

宗賢 むねけん

後二位

後二位

宣賢 のりけん

後二位

環翠軒 えんすいけん と号 なづ 止

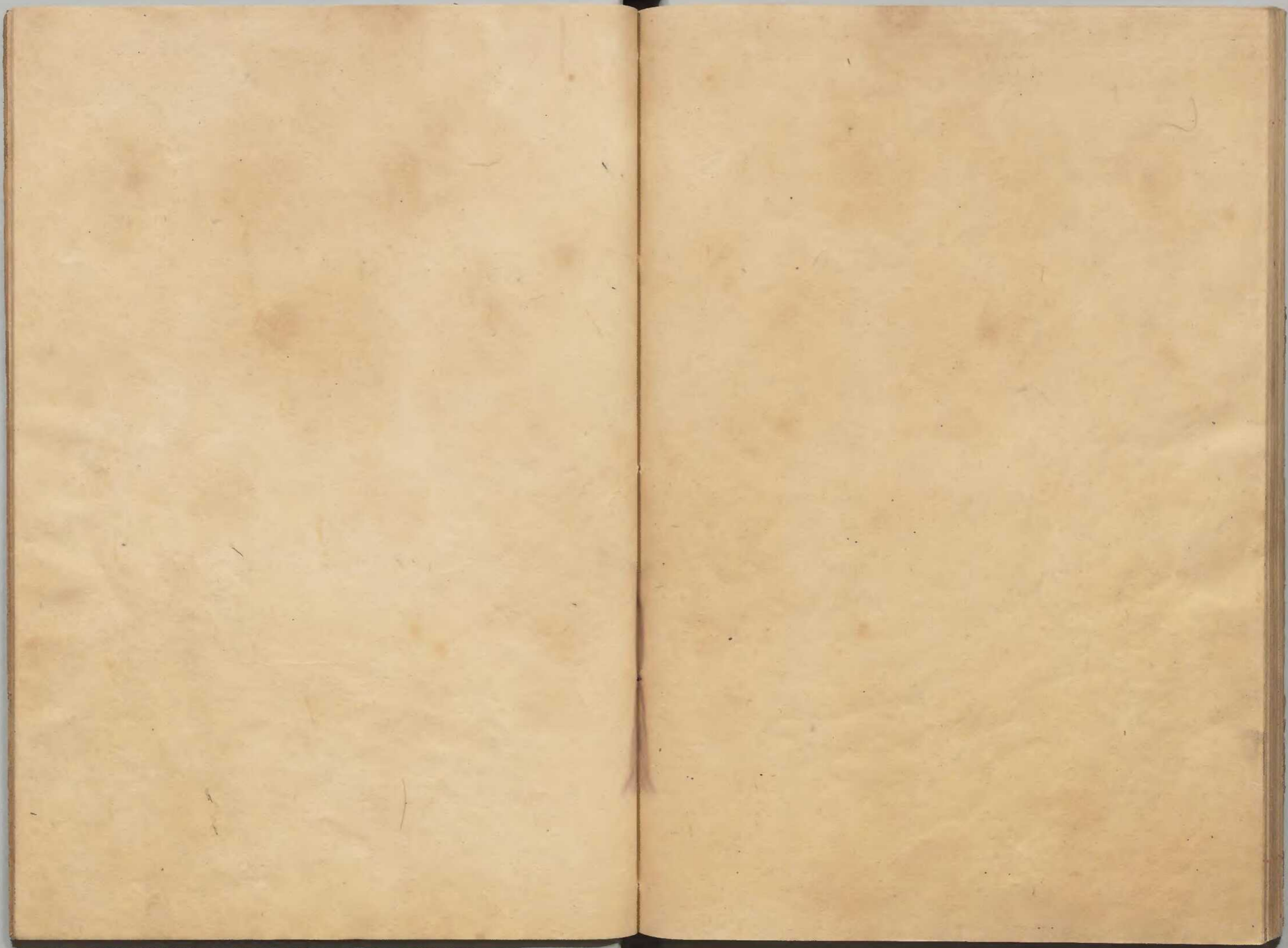
業賢 なりけん

後二位

枝賢 えだけん

後二位

長治 ながち



平野

● 勝表

隠波 生國安房
里見安房守義廣

勝表

次郎大進 生國安房

將軍家_ノ一_ノ所_ノ之_ノ事_ノ也
寛永十七年_ノ死_ト 法名_{見書}

勝貞 ハチ

指_ノ之_ノ物 生國_{何_カ}

將軍家_ノ一_ノ所_ノ之_ノ事_ノ也

勝長 ハチ

治郎_純 生國_{何_カ}

將軍家_ノ一_ノ所_ノ之_ノ事_ノ也

二家_ノ之_ノ頭_也

